



特許願(F)

(200万円)

昭和44年12月27日

特許庁長官 井上武久殿

1. 発明の名称

腕時計用着色板ガラス

2. 発明者

長野県飯田市下飯田町大門6801

吉田 勲 (他1名)

3. 特許出願人

東京都中央区銀座4丁目3番4号

(236) 株式会社 訪問精工舎

代表取締役 西村留雄

4. 代理人

東京都渋谷区神宮前2丁目6番8号

(4664) 井理士 最上務

連絡先 563-2111 内線 223~6 指定 長谷川

5. 送付書類の目録

正 印 紙 書	1 通
回 答 面	1 通
申 請 代 理	1 通
特許出願手続書	1 通

明細書

発明の名称 腕時計用着色板ガラス

特許請求の範囲

イオン交換及び結晶化等の方法により強化され、かつ着色せることを特徴とする腕時計用無機質板ガラス。

発明の詳細を説明

本発明は腕時計用ガラス板に係わるもので、本発明を使用する事により携帯者に十分な満足を与えるものである。

今日の生活様式は益々個性化し多様化の一途を辿っている。特に人々の色彩に対する感覚の変化は激しく中でも衣服においてはもはや変化ではなく、革命と呼ばれるまでに至っている。

この様な状況の中で、時計、特に腕時計においても服装あるいは雰囲気に適合した形状及び色調が強く望まれるのは当然のことであろう。

本発明はこの様な要望に充分応えられるものであり、

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪ 特開昭 48-71672

⑭ 公開日 昭48.(1973)9.27

⑯ 特願昭 47-2871

⑭ 出願日 昭46(1971)12.27

審査請求 未請求 (全2頁)

府内整理番号 ⑮ 日本分類

F62324 109AF1

本発明の使用によりシャープでクリーンなしかも非常に高貴な体験感をかもし、携帯者を充分満足させ得る腕時計を提供するものである。

ところで從来の時計はと言えばデザイン等に形の面では非常に優れたものも見られ、その点では使用者の満足を得る事が出来た。しかし色彩に関しては全く乏しい限りで、わずかに文字板及び一部の周囲においてのみ金属色（例えば金色あるいは銀白色）以外の色彩を見るに過ぎず、従つて腕時計としての芸術的方面でのデザインには限界があり、それが故携帯者の個性化する願望を満たすには至っていない。

一方腕時計用ガラス板として要求される条件は

- (1) 衝撃に強く、使用中に傷がつかない程度に硬いこと、
- (2) 透明度が大きく、屈折率が比較的大きい事、
- (3) 成形性が容易である事、
- (4) 耐候性が大きく、シャープな感じを有する事、
- (5) 一般に使用される薬品及び雰囲気に対して抵抗の大きなこと
- (6) 優雅なしかも携帯者に優越感を与える様な彩色を

特開 昭48-71672(2)

にした。また腕時計と限定したのは他の時計例えば懐時計あるいは掛時計においても有効である事には迷ひはないが、腕時計ほど高い実用的な価値がないからである。

一般にガラスの着色には現在三種類の方法があり、例えば金属酸化物の添加により全体を着色する方法或いはコーティングまたは有色薄膜を用いる方法等が存在するが、いずれの方法によつても前述の様な効果があるので、特に着色方法については限定しかし。

本発明の実施によるアメジスト色、エメラルドグリーン色あるいは淡いピンク色等に彩色された腕時計用ガラス板け文字板及び針との調和のもとに非常にユニークでしかも優雅な体裁感を有し、特に女式腕時計においては服装に適合させて使用する事により他にない優越感を与え、正にこれから腕時計用ケース材料の一部として本発明は不可欠のものである。

以 上

代理人 最 上 権

4. 前記以外の発明者

長野県飯田市因賀780番地の3

吉井 俊彦